

## 特別展「水晶の世界」への招待

赤羽久忠

富山市科学文化センターでは、平成13年7月17日(火)から9月16日(日)まで、特別展「水晶の世界」を開催いたします。

水晶はその透き通った透明な美しさから、「水の精」が宿ると考えられ、「水精」と呼ばれ、数ある宝石の中でも特別の地位を占めていました。

水晶の成分はあまり目立ちませんが、様々に形を変え地球の歴史の中で重要な役割を演じてきました。この特別展では、水晶の仲間の多様性を探るとともに、生物界や人間との関わり、さらに近年の技術革新における水晶の利用などについても展示します。また、地表付近における水晶の成分の振る舞いに関して、未だ解明されていない不思議さについても紹介いたします。水晶とその仲間たちの世界を堪能して下さい。

水晶の成分は、地表付近の岩石である花こう岩や扇状地の砂岩などでは60～70%を占めます。地表付近は大部分が水晶の成分からできているということが出来ます。この水晶の成分は、地下水や温泉水に溶けたり固まったりします。これらの過程を通して、水晶・メノウ・碧玉や宝石のオパール・珪華・子ぶり石・珪化木などもできました。しかし、それらがどのようにしてできたのか、そのメカニズムについてはまだよくわかっていません。水晶の成分だけでなく、長い地質時代を通して行われた現象には、まだまだ私たちが実験室で再現できず、どうしてそのようなことが起こるのか理解し得ない不思議な現象がたくさんあります。これらの現象を解明し、自然が色々な変化に対しどんな反応をするかを予測できるようになる必要があるように

に思います。そのことは、地球の未来と私たちの将来を考える時、私達が今何をすべきかを考えるための資料になると思うからです。

ここでは、特別展「水晶の世界」での展示品のいくつかについて紹介します。

この特別展を開催するにあたって、独立行政法人産業技術総合研究所地質標本館・フォッサマグナミュージアム・山梨県立宝石美術専門学校・東洋通信機宮崎工場・群馬県吉井町郷土資料館からは多くの貴重な標本をお貸しいただきました。特に、フォッサマグナミュージアムには、常設展示室で展示中の標本をこの特別展のために大量にお貸しいただきました。立山カルデラ砂防博物館・藤田石装株式会社・山梨大学の角田謙朗助教授・島根大学の中山勝博助教授・富山大学の清水正明教授・杉田キミエ様・産業技術総合研究所の柳沢幸夫様、斎藤眞様、木村克己様を始め、多くの施設・団体・個人の方々にはこの特別展を成功させるために、多くの資料や知識・アイデアを提供いただき、大変お世話になりました。

ここに厚くお礼申し上げます。

